

「晩秋の上高地紀行(8)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今回両親に予約したホテルは、「五千尺ホテル」という上高地の老舗宿泊施設である。宿泊費がとても高く、しかも予約をとるのが非常に困難なホテルとして有名だ。それもそのはず、場所は上高地の核心部である河童橋の目の前、客室からも穂高連峰が望めるのだ。



普通なら紅葉シーズンの予約はまず不可能なのだが、今年はコロナの影響で、春のうちはまだほとんど予約が入っていなかった。宿泊3日前までは無料でキャンセル可能なので、私は両親の為に予約を入れておいたのだ。2名3泊で食事付きで27万円！それでも海外旅行よりはずっと安いし、高齢の両親にとっては、最後の上高地になるかも知れないと思い、あまり迷いはなかった。



その後、ホテルから連絡があり、例のGoToトラベルで、宿泊費が約9万円の返金になるという。しかも、地域共通クーポンも45,000円分もらえるという。

何というラッキーなことだろう。こんなに使い切れないうらと思っていたら、父は上高地にある登山用品店で、新しく登山靴を買ったと喜んでいて。



「地域共通クーポン」は、旅行期間中のみ有効で、旅行先でお金を使ってもらおうという趣旨の企画である。しかし、隣接県でも使えるという特徴もある。長野県は隣接県が日本一多いので、長野県以外でも名古屋(愛知県)や大宮(埼玉県)でも使える、超ワイドな使用範囲だ。ガソリンスタンドや、バスの往復切符にも使えるので、あらかじめ調べておくと、すいぶんお得に旅行ができるだろう。



両親が泊ったのは、3階の梓川側の客室だった。専用のテラスがあり、テーブルと椅子も置いてある。そこから、河童橋から眺めるのと全く同じ景色を望むことができる。私は日帰り予定だったので宿泊はしなかったが、ドカドカ客室まであがって、しばらく休ませてもらった。この客室に3泊も滞在するなら、わざわざ出かける必要もなく、一日中梓川と穂高を眺めて過ごすのがいいと思った。実際に両親は、日中の半分ぐらいは客室からの眺めを楽しんでいたようだ。